

# としょかんだより 第114号

## 松尾芭蕉

高野山大学図書館長 前谷 彰（恵紹）

### 行く秋や手をひろげたる栗のいが

（句意）

秋が去ろうとしているなあ。栗のいがが手をひろげたように開いているではないか。

（解説）

芭蕉は元禄七年の初頭に大阪で逝去しますが、この句はその直前に故郷の伊賀で二か月ほど滞在した後、大阪へ向かう数日前に詠んだものです。故郷伊賀の人々は長く過酷な旅のせいでめっきり老け込んだ芭蕉のことを心配し、何とか故郷にとどまるようにすすめたのですが、芭蕉は大阪へ旅立ちます。

去り行く秋の日に、芭蕉はふと幼い頃遊んだ栗の木の下に落ちている栗のいがを目にします。開いた栗のいがは、手を開いて微笑んでいるような形状をしています。芭蕉はその栗のいがに深まり行く秋を感じたのでしょう。しかし、この句における「いが」を彼の故郷である「伊賀」にかけていると考えると、この句意は単なる叙事の域を超えて行きます。

栗のいがが開いている様子をなぜ、「手をひろげたる」と表現したかを考えてみましょう。確かに、開いたくりのいがは手をひろげたような形状をしています。芭蕉はその開いている栗のいがによって、深まり行く秋の光景を詠みたかっただけではないのです。「手をひろげたる」という表現には、故郷伊賀の人々の彼に対する温かい思いが込められているに違いないのです。

秋が去り、やがては寒さ厳しい冬がやって来ます。しかし、芭蕉は故郷を出て大阪へと向かう決意を固めます。そんな時、ふと開いた栗のいがに、「いつでも帰っておいで、いつでも温かく迎えてあげるから」と言わんばかりに、思いっきり手をひろげてくれている故郷の人々の心を感じ取ったのではないのでしょうか。栗のいがは棘立って痛いものです。でも、そのいがが手をひろげたように開くと、その中には甘い栗の実が笑みを浮かべて顔を出してくれているんです。



2017年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2017年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

	9:00-20:00		9:00-17:00
	休館日		13:00-20:00
	13:00-19:00		9:00-19:00

## 発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町  
高野山 385  
高野山大学 図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

twitter : @koyasanlib

# 秋のコンサート

高野山大学図書館ミニコンサートを開催します。  
皆様お誘いあわせのうえ、会場へお越しください。  
グランドピアノとファゴットによる秋の曲の演奏  
をどうぞお楽しみください。



日 時：11月24日（金）16：40～17：10

場 所：松下講堂黎明館 1階

演 奏 者：浦上知子先生(高野山高校音楽教師)

村尾梓先生(大阪芸術大学演奏学科演奏要員)



## 世界遺産 高野山参詣道追加登録 について



10月25日大学2階205号教室にて、  
図書館戸田文化講座を開催しました。

講師は、和歌山県世界遺産センター主幹

の入谷和也先生でした。

世界遺産追加登録の経緯や古い資料や地図を交えながら聞  
く参詣道に現存する史跡や文化財、調査過程で発見された  
遺物についてなど、大変興味深い講演となりました。

## 企画コーナー 日本遺産

日本各地の文化や伝統の魅力を伝えることで、その地域の  
活性化を図る事を目的としているのが「日本遺産」です。  
平成29年度に和歌山の「和歌の浦」、「紀州湯浅」が認定  
されました。

この地域について書かれた図書を一部ご紹介します。

書 名	請求記号	登録番号
和歌浦 その景とうつりかわり	650/ワ/3	00011777
日本史の中の和歌浦	710/ハ/1-121	000162812
日本の味 醤油の歴史	710/レ/12-187	000107289
湯浅町誌	761/ユ/2	891004915